

第4号様式（第8条関係）

議事録

会議名	令和6年度第1回寒川町総合計画審議会
開催日時	令和6年8月1日(木) 14時57分から17時13分
開催場所	寒川町役場 東分庁舎2階 第1会議室
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>小川雅子、相田孝、篠田寛、森井順子、及川和彦、猿渡修悟、高橋伸隆、内野晴雄、天利幸一、山本哲、菊地端夫、釣持麻衣、橋口翔、野田春希、小林誠</p> <p>(欠席者)</p> <p>落合裕子</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>野崎企画部長 (企画政策課)</p> <p>関根課長、守屋主査、山下主査、酒井主任主事、前田主事、佐藤主事</p> <p>※ 傍聴者3名</p>
議題	<p>(1)令和6年度町民満足度アンケートの調査結果について</p> <p>(2)寒川町総合計画2040 第1次実施計画令和5年度実施事業分の事務事業評価結果について</p> <p>(3)寒川町総合計画2040 基本構想等の改訂について</p> <p>(4)寒川町総合計画2040 第2次実施計画の策定スケジュールについて</p> <p>(5)寒川町総合計画2040 第2次実施計画体系図(案)について</p>
決定事項	<p>(1)令和6年度町民満足度アンケートの調査結果について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p> <p>(2)寒川町総合計画2040 第1次実施計画令和5年度実施事業分の事務事業評価結果について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p> <p>(3)寒川町総合計画2040 基本構想等の改訂について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p> <p>(4)寒川町総合計画2040 第2次実施計画の策定スケジュールについて 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p> <p>(5)寒川町総合計画2040 第2次実施計画体系図(案)について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p>

公開又は 非公開の 別	公開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>○開会</p> <p>1 委嘱状交付（猿渡委員）</p> <p>2 委員自己紹介</p> <p>3 議題</p> <p>（1）令和6年度町民満足度アンケートの調査結果について            &lt;事務局から資料1に基づき説明&gt;</p> <p>【会長】御説明いただきましたアンケート調査結果ですが、御質問、あるいは御意見などございますでしょうか。</p> <p>【小川委員】46ページで都市インフラの最適化についての満足度が低いと出たとのことですが、具体的にどういった意見があったのでしょうか。</p> <p>【事務局】今回のアンケートについては自由意見をいただきおりませんので、どういった意味でここが低いかというところまでは見えていないところです。ただ、後ほど説明する第2次実施計画を策定するに当たって、担当課にはこのアンケート結果を渡しておりますので、このアンケート結果や、日頃から聞いている町民の御意見、社会経済環境の変化などを捉えて、これから第2次実施計画に触れていくこう思います。</p> <p>【野崎企画部長】推測で話してはいけないのですが、歩道が必要という要望が常にあります、寒川町の場合、大きい道についてはほとんどが県道で、あとは町道も狭いところで家屋が建っているので、なかなか歩道を拡幅するのは難しいので、そういう意味ではここに少し反映されているという気はします。</p> <p>【内野委員】29ページと30ページの満足度について、商業の振興の満足度というのが、やはり1の「低い」が116で一番多いのです。34の観光も「低い」が103と一番多いのですが、観光については寒川神社の参拝で年間200万人以上、寒川に訪れています。そんな中でも観光の振興の満足度がないということは、やはり何か問題が寒川にあると理解できますが、町としては今後どのように考えていくのか聞きたいと思います。</p> <p>【事務局】商業の振興につきましては、長年こういった満足度の低い結果となっておりますので、地域通貨を商工会で導入していただいて、その中で寒川町の既にある魅力的な商業のことをもっと知っていただき、利用を増やしていくような方策を考えているところでございます。</p> <p>ここで満足度が低いと出ているのは、大きい市に囲まれている中で、大きなショッピングモール等があつたりするところが原因と考えております。ただ、日常的な買物に困っているという声はあまり聞かないので、そういうアラファのショッピングを意識した買物になっているのではと思っております。</p>		

	<p>観光の振興につきましては、今おっしゃられたように、寒川神社は200万人も来ているところで、日本一御祈禱数も多いと言われている中でこうやって出てしまっているのは、やはり寒川神社に来てそのまま帰ってしまう方が多いと担当課も捉えておりまして、寒川神社に来た方が寒川町内の周遊にうまく繋げられるような施策を考えていこうと、第2次実施計画に向けて話をしているところでございます。</p> <p>【内野委員】これと並行して、寒川の土地利用の話がやはり低かったですね。土地利用を考えないと解決できないのではないかと思いますが、寒川の都市計画図でもう少しうまく配置できるように、農業計画等もきちんと作って、農業は農業、商業は商業、工業は工業というそのすみ分けをうまく作れば、さらに発展するのではないかと思います。</p> <p>【野崎企画部長】土地利用の関係につきましては、農用地や、市街化区域と市街化調整区域を変える等については、かなり強い法律があって、そこを町としても突破しなければならないのですが、なかなか難しさがあるということです。</p> <p>ただ、こちらの神社と役場の間については、にぎわい交流創出ゾーンという形で町としては計画に位置づけをして、農業の関係も、来年度には農業ビジョンを町として、今後の寒川町の農業をどうしていくかという計画も作って、町の方向性を出した中で、県や国とも交渉して、魅力的な町にできるように、寒川神社に来た方々が寄ってもらえるようなところにたどり着けるように、一つ一つやっていく段階でございます。</p> <p>【猿渡委員】私が自治会長を務めているのが一之宮ソフィア自治会といいまして、寒川町南部の自治会なのです。先ほど商業の振興についてお話があったのですが、私のマンションができて、40年くらいになるのですかね。非常に高齢化しております。65歳以上が40%を超えております。ただ南部のほうはお店が段々なくなっているのです。若い方は御自分の車で行けますが、高齢者は行けず、買物難民なのです。</p> <p>北部は倉見も含めて様々なお店ができている。南部のほうはなかなか買物に行けるお店はございません。ですから、我々はどうするかというと、移動販売の豆腐屋に週1回私のマンションに来てもらえるように声をかけています。だからこれまで商工会にお願いいたしまして、八百屋等に週1回売りに来てもらえるように言ったとしても、いろんな状況で1年、2年で終わってしまう。</p> <p>自治会長として商工会にはそういうものを派遣していただくように依頼していますが、なかなか解消しません。高齢になって免許返納した方が買物をしに、もくせい号に乗っているようですが、いかんせん本数が少ない。病院は病院の車が来てくれるから行けますが、買物は全く大変な状況なのです。</p> <p>工業地帯、南部のほうも、田端のほうから様々な開発が進んでおりますけれども、そういうスーパー等、少し買物に行けるところはなかなかできないのです。コンビニもできていたのが、だんだん車が来ない、お客様が少ないので、真ん中のほう、あるいは北部のほうに行ってしまって、それも減っている。こんな状況になってき</p>
--	--

て、困っているのが現状なのです。若い方は自分の車で行きますから、そう感じない。高齢の人は本当に困っている。こういう部分が実際にありますので、この部分をやはり考えていく必要があると思います。

アンケートにオンラインで回答を求めるとなっているのですが、高齢になればなるほどこういうことができない方が多いのです。本当に困っている話が、実際に町に伝わっていないのかなと今感じました。私は自治会の役員を長くやっておりますので、こういった声を一番切実なものとして受けています。そういうところも御検討いただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

【高橋委員】今、猿渡委員の意見が出ましたけど、このアンケートそのものが問題なのです。今回で3回目のアンケートですが、令和4年にやったときには1,300件以上の回答があった。それが昨年度は560件に半減した。さらに今年は250件だった。さらに半減したということになると、アンケートそのもののやり方が悪いのか、内容の質や信憑性を問われるのではないかと思うのです。

それが今、猿渡委員が言っていたように、ネットでやれば確かに安上がりにはなるのでしょうかけど、本当にそれだったらやらないほうがいいのではないかという話になるわけです。何のためにやるのだということ、目的をはっきりさせれば、少々費用がかかっても、例えば郵便でやるとか、個別にやるという手もあります。

やはり信憑性をきちんと取るために、例えば4万8,000人の人口、あるいは世帯数でいったら2万幾つの世帯数に、ランダムに計算して、そこからアンケートを取りに行く方法が、信憑性としては非常に高くなると思うのです。そうしないと、回答が250件しかないが分析しましたでは、あまり意味がないのではという気がしております。

それと、2つ目にお伺いしたいのは、令和5年度のときよりも、今年度のこの結果のほうがさらに悪くなっている。要するに、回答でもって悪くなっているというより、1や2のほうが増えているという、その辺の分析を各担当のほうでやられているのかどうか、事務局にお伺いしたい。

それから3つ目としましては、これはせっかく毎年やっているならば、令和4年度のパーセント、令和5年度のパーセント、令和6年度のパーセント、実績を同じ項目で質問しているわけですから、統計的にどう変化しているかという分析をやっているのかもお伺いしたいと思います。

【事務局】まずアンケートの取り方の部分については、無作為抽出で郵送によるアンケートを4年に一度行っておりまして、それも今後もそういったタイミングでやっていこうと思っております。

ただ、4年に一度だと時間が空き過ぎるので、オンラインができるようにもなったことも踏まえて、試行的にやってきたところではあります。ただ、高橋委員がおっしゃったように、年々回答数が半減、半減できているということについては、事務局としてもやはり課題があると思っております。

アンケートの項目を後ろにつけさせていただいておりますけれど、オンラインで

やるにしても、少し項目が多いかと感じておりますし、質問の内容についても毎年同じだと、どうしても回答率が悪くなってしまうというところがありますので、費用をかけてでもやっていくのかということとバランスを見ながら、アンケートの取り方については検討・工夫していきたいと思っておりますし、猿渡委員からもおっしゃっていただいた、高齢者がオンラインで回答するのが難しいというところもあると、高齢者の方の声をきちんといただくといった部分でも、またアンケートのやり方を考えたいと思っております。

【野崎企画部長】郵送でアンケートをやるというのが基本のスタンスで、町としては無作為抽出でやってきました。寒川の人口の場合、450 標本ほど集まると、真の値に対して 95%ほどの信頼性があります。アンケートも回答率が年々下がって、現在 30~40%の間なのですが、その中で 450 標本集まるように努めています。

郵送が基本で、オンラインは補完的に実施しております。1回目回答した内容とまた同じ質問がたくさんあると、少しやる気が出ないというのは、反省点として今思っているので、やり方を変えていきたいと思っています。ただ、4年間の実施計画の中で、4年だけこれをやろうということで今3年目を迎えて、こんなに落ちてしまっているのが、実情となっていますので、これを踏まえて改善を考えていきたいと思います。

【高橋委員】前にもお話ししたと思うのですが、アンケートのやり方自体が非常に重要と考えます。郵送でやるとランダムだからいいということではなくて、その回答率が 30%になってしまふと、信憑性はかなり下がってしまう。ですからもう少し工夫する必要があるのではないかと、昨年も同じようなことを言ったのですが、結局郵送してランダムでやっているから信憑性があるかというとそれとは違うような気がします。

こういう統計の取り方というのは、もう一つ工夫されてもいいと思う。電子化だけでもよくないし、かといって、郵送で送ったからそれはランダムになったと、それも少し無理がある気がします。だから本当に信憑性のある、信頼できるものをやるのならば、別に 400 が 300 でもいいと思いますが、完全にランダムに取ったアンケートだということになればいいと思います。その辺は一工夫、是非していただきたいと思います。

【小川委員】確かにアンケートを返す側とすると、項目が多いのと、毎年同じようなことが来ると、もう回答したしという気持ちになるのです。寒川町には先ほど猿渡会長が 22 の自治会があるとおっしゃっていました。それぞれの自治会でやはり地域性というものがあると思います。自治会に私も評議員になったときに月に1回出ていましたけれども、そこでその地域の困り事等が出てくると思う。どういうところに困っているとか、満足しているとか、自治会ごとにある程度の数を出すと、大体この地域ではこういうことに困っているということが分かってくる。

先ほど野崎部長がお答えいただいた、肌感覚。このアンケートの内容が具体的にどうかということはお答えできないけれど、町民を見ていて肌感覚として捉えるこ

とはとても大事だと思っていて、アンケートばかりに囚われて時間と予算を使うよりも、住んでいる人たちの肌感覚を受けて、そこを改善に向けるというと、すごく満足度が上がるような気がするので、せっかく毎月評議員会で集まっているので、自治会長にも協力をお願いして、地域ごとの満足度を上げるというのも一つの手かなとも思いました。

【高橋委員】先程の私の意見で誤解があつて、そもそも同じ質問をしなければ、本来は統計にならないわけですよね。毎年違う質問していたのでは、去年のデータがどうだったというのは分からぬわけですから。同じ質問をするのが必要であつて、それを同じ人にもしてもいけないのです。ランダムにやれば確率的には同じ人には行かないはずです。ですから、同じ質問を毎年きちんとランダムにやらないといけないのが、同じ人のところにばかり同じ質問を毎年やっているから答えが同じなのだという話になると、少し違つてしまふと思います。

また、小川委員が言わされたように、困り事というか、そういうものはまた別の意見の聞き方がないと、これはいいか悪いかのようなアンケートとは少し違つてくるのではないか。もう少しそういう困り事は困り事で取つたらどうかと思います。

【事務局】まず、アンケートの中で経年変化を捉えられているかということについて、資料の中で44ページ、45ページ、52ページ、53ページ、56ページ、57ページといったところで、20代から50代の世代と60代以上の世代の方について、それぞれ設問に対して、令和4年度と5年度、6年度の3か年の傾向をグラフでお示ししております。

概略としては、20代から50代の方については年々満足度が増加傾向にある一方で、60代以上の世代については横ばい、または減少傾向にあるといったところは御説明したとおりとなっておりますので、特に下がっているところはグラフをお読み取りいただければと思います。

また、地域の声をどう拾うかというところは、アンケートによって地域とクロス集計するといったものも一つはあるかと思いますが、それ以外に町の特色として、地域担当職員という制度を設けておりまして、各地域の自治会の定例会に、町の職員、主に管理職がお邪魔して、町の情報を伝えるとともに、地域で困っていることや要望等をお伺いしております。

具体的に困りごとがあった場合、それらを所管する担当課に持ち帰って伝えて改善に上げているところもありますし、すぐに対応が困難である場合は、持ち帰らせていただいた後検討して、また次に地域に行ったときにお返ししておりますので、そういったものも活用していただけたら、町のほうとしても地域の声を把握することにも繋がりますし、町がよりよくなるために、どういったところに課題があるのかがお伺いできるかと思いますので、そういったところも活用していただけるといいのかと思います。

【天利委員】アンケートについては、来年以降回答数が増えるような形を期待しております。

あと1つ、商業環境のことですが、私、実は商業協同組合という会に入っています。来年30周年なのですが、当時立ち上がって10年、15年ぐらいのときには、加盟店が約90店舗あったのです。その90店舗は、今年あたりだと40店舗に半減しています。

当時、商業協同組合ポイントカードの事業をやるかというときに、やはり大型店舗に対抗するために地域で商売を頑張ってやっていこう、横のつながりで個店同士頑張って、ポイント事業で還元する形だったのですが、やはり大型店が出てきたことによって、そのサービスがなかなか還元できないという形がありまして、来年30周年と言いましたが、今経営者が、大体50代から60代の人間が経営しているという状況でございます。

その後の後継者というのはほとんどいません。そうなると、あと5年、10年、その約40店舗の加盟店がどこまでできるかというと、やはり段々とそういう個店が減ってくるというのを、皆さんにも実感していただければと思います。大型店舗は8店舗、10店舗ぐらいありますよね。

それが増えることによって個人店舗が幾ら頑張っても負けてしまう。そうすることで個店が減ってくる。これはしようがないのかと思いますけれども、頑張っても無理というようなところがあります。それは、2代目、3代目がなかなかこういう状況だと継ぐ方がいなくなるという形で、個店がだんだん衰退しているのを感じていただければと思います。

【会長】ありがとうございました。いろいろ御意見いただきました。私自身もそのアンケートをやる側で研究して、おっしゃるとおり、サンプリングのランダム性を確保する、母集団の分布ができるだけ鏡のように反映させるという実証が最も望ましいのですが、実際には至難の業でございまして、例えば悉皆調査の代表である国勢調査なんかも、実はかなりゆがみがあると言われております。

そういう意味で、このランダム性の確保ができたかどうかについては、4年に1回やられている調査と、毎年やっているものの散らばりの分布の比較をすると、いわゆるスノーボールサンプリングと呼ばれるようなやり方とランダムサンプリングを丁寧にやった場合、どれくらいの誤差があるのかが見えてくるのではないかと思います。

また、何に使うかということについて、例えば今のようないろんな個々の比較について議論を喚起するという役割もあると思うのですが、例えば46ページにポートフォリオの話が出ています。このポートフォリオ分析というのは、将来的な意思決定にどう活かすかということに使うものです。

これで言うと、施策タイプのIVです。右下の投入資源を減らして、施策タイプI、左上に資源投入量を増やすことによって全体の満足度を上げていくというような、意思決定に資するための情報をつくっていくというようなものになるわけです。そういうことを、まさしくこれを使って、今後この第2次実施計画、あるいは第1次実施の後になりますし、これからこの結果をどう使っていくかということが

求められるのではないかと思います。

もう2点、55ページに、イメージなしというのを入れていただいたのは非常によくて、やはり住民は全ての施策について知っているわけではないので、例えば当然ながら高齢者は子育てへの支援についてイメージがない方が多い。あるいは障がい福祉の充実の満足度について全般的にイメージがない。やはりこういったものはむしろ、当事者に聞かないと駄目だということを示唆しているわけです。そういうつたこの政策の満足度、あるいは評価の測り方の次を考えていく際に、一つ参考にしていただければと思います。

加えてこのアンケート評価というのは、順番で言うと次になりますが、事務事業という行政がやっている事業の結果が、このアンケートに表れるアウトカム評価に繋がっているのかどうかというのと、事務事業評価の結果とこのアンケートの結果の関係を見ていくというような使い方もあるかと思いますので、いろんな議論がありましたけれども、これをどう生かすかというのはこれから次第ということで、ぜひともよろしくお願ひいたします。

【小林委員】ポートフォリオ分析について、令和3年度の重要度をスライドして作成しているが、もう令和6年なので、これは本当にスライドしてしまっていいのでしょうか。そこに変化値はないでしょうか。それが1つ目。

あと2つ目。先程アンケートの取り方や、サンプル先が同じということも、もしかしたらあるかもしれないですが、結果としてやはり現状変わらないと思うので、先程説明していただいた20番の防災対策は評価が低くなったわけですね。3番と12番、幼児教育、障がい福祉の充実は評価が高くなつたということで、ここは前回に対しては僅かですけど、3項目、変化値と捉えています。

あと少し気になったのが、施策タイプIIIのところで幾つか興味深いものがあるのですけど、これは今後の重要度も低いため、状況に応じて取り組むべき施策になっているのですが、言葉として「つながる力で新化するまち」があるところで、ここ的重要度が低いといつてしまふのは良くないのでは。今までやってきた活動施策と取組に対しての振り返りを、こここのポートフォリオ分析をしっかりと見て、次やるべきことを定めたいと思いました。

【会長】小林委員、ありがとうございます。今いただいた面も含めて、事務局にお返します。

【事務局】ありがとうございます。重要度については、やはり令和3年度からかなり変わっている可能性もあるだらうと捉えております。ただ、アンケートの回答数も段々減っている中で、重要度も改めて消してしまうともっと下がってしまうという懸念もあり、ここは重要度をスライドさせていただいているところです。ただ、重要度が全く一緒かというと、おそらく違うだらうと捉えています。

また、施策タイプIIIについては、今回のアンケートは住民の今の満足度でございます。これから政策の重点に入れるもの、入れないものを判断する中で、これから社会経済環境がどうなっていくか、将来の寒川町にとって何を投資する期間か、

	<p>今回のアンケートも重要な点は、ほかにもいろいろな要素を踏まえて判断していかなければならぬと思っております。</p> <p>【会長】ありがとうございます。最後に1点だけ、一委員としてのコメントを。59ページの回帰分析です。御説明では触れられていませんでしたが、この右中段のR2というところが回帰分析のモデルの決定係数になりますが、大体6割ぐらい。このモデルで説明できる範囲というのが大体6割あるというのは、決して悪くない数字です。これで説明できないのが残りの4割という形になるわけです。この設問のつくり方としては割合精度は高いのではないかというのは、コメントとして申し上げておきます。</p> <p>(2) 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画令和5年度実施事業分の事務事業評価結果について ＜事務局から資料2に基づき説明＞</p> <p>【会長】今御説明のありました内容について、御質問、確認したいことなどございますでしょうか。</p> <p>【高橋委員】10ページ目の達成率について、特に達成しなかったものを抜き出したということですが、0%というのは結局何もやっていないということですか。去年もこれは同じ質問をしたような気がしますが。例えば高齢介護課の生活支援体制の整備事業は0%ですね。その前の年もたしか0%でした。ということは、ずっと何もやっていないということと解釈してよろしいでしょうか。</p> <p>【事務局】こちらにつきましては、12ページの上段で、221-03、生活支援体制整備事業というのがあり、こちらの指標が生活支援・介護予防必要サービス抽出数となっております。こちらの生活支援体制整備事業につきましては、やはり高齢者の方々を地域で支えるためには、多職種の方が連携したサービスを考えて、それを地域に落としていくという目標なのですが、その目標としては毎年1つずつサービスを生み出していこうと検討はしているのですが、サービスとして地域に落としていくでないというところでございます。</p> <p>【高橋委員】行政の目標として、1年に1個という目標でいいのでしょうか。</p> <p>【事務局】今回、第1次実施計画になったときに、高齢者を支えるのは行政だけではなく、様々な地域の方と連携をしなければいけないというところで、チャレンジ的に1つずつサービスをみんなで相談しながら生み出していくということで決定しているのですが、そこがうまく年に1つできていないという状況でございます。</p> <p>【高橋委員】2年も3年もずっと目標になっているので、ゼロというのは行政をやっているのではないかという話になってしまふ。逆に目標の設定の仕方はどうなのかという気がします。決して手を抜いているとは思っていませんが。</p> <p>【及川委員】今のことに関して、私も0%が気になっていて、それを実現するための過程をもっとブレイクダウンして、アクションをもっと細かくして、それがどこまで行ったかとしないと、例えばほとんどできかけたけど、最後どうしても1にな</p>
--	---

らなかった。それで0%と評価されるほうもかわいそうですよね。一生懸命努力しているのが見えない。だから、もっとそういうのが見えるような設定の仕方というのはできると思うので、ぜひ今後そういう形でやっていただいたほうがいいかと思います。

一般的には民間企業だと、そういう評価がしやすい、できる形のところまでブレイクダウンして、それで評価指標が見えるようにするということを通常やると思うので、多分そんなに難しいことではないと思います。ぜひ検討いただければと思います。

【小林委員】12ページの課題のある事務事業一覧の目標指標について、少し酷かなというのが幾つかあって、スポーツ大会の参加人数は雨が降ってしまえば下がってしまう。あと一番気になったのは、文書館資料保存活用事業。職員があんなに頑張っているのに、SNSのコンテンツ閲覧者で評価されてしまうのはかわいそうなので、もう少し何か違う指標で見たほうがいいのでは。

【事務局】今いただいた御意見も含めて、指標の設定の仕方に課題があると思っております。これを踏まえて、次の第2次実施計画のときには、もう少し上位の目標に対しての関連性が見えるかというところで、設定については改善を図っていきたいと思っております。ありがとうございます。

【会長】今御指摘があったとおり、特に課題のある事務事業を抽出したところで、なぜそうなっているのかということを分析していく作業ですが、この事務事業評価として考えたほうがよいですね。これを来年度まで5年間やっていって、最終的には施策評価と、先程議論があったアンケートによる満足度との関係が見えてくるのかというところまでで、第1期の計画の評価という形になっていくかと思います。

そういう意味で、課題のある事務事業一覧に載っているところと先ほどのアンケート、アンケートはかなり施策の柱、施策と分野という形でぼやっとしているところなので、それと結びつくかどうかというところも含めて、我々も見ていかなければいけないかと思います。

職員力向上事業が、我々もここで議論したのですが、課題のある事務事業一覧に載ってきているのは残念なところではありますが、我々の提案に対する評価という形として、もう少しいい形で提案を投げないといけないということなのかなと思いつつも、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

【橋口委員】マイナスになっているということは下がっているのですか。

【事務局】職員力向上事業のところがマイナスになっているのは、下がっているということです。

【橋口委員】0%ではなくて、マイナスということですよね。

【会長】基準に対して目標値を高く設定しているのですけど、実績が逆に下がっているからそのようになってしまいます。

【事務局】ここの部分については一昨年御提言いただいて、去年も御提言いただいたことを確かに受け取って、対応方法を御説明させていただきましたが、今、人材

育成基本方針で、どのように職員を育成していかなければいけないかというところを作っているので、そこがでけてから制度として落とし込んでいく予定ですので、まだいただいた御意見を制度として落とし込めていないところが結果に出ているのかと思います。

【会長】また、先程の指標の御意見の中で、この指標というのはどちらかというと、活動指標というよりはアウトカム指標のようなところがあるので、事務事業評価の中では少し特異な指標といいますか、評価が出るとしたときにはラグがあるのかもしれませんとおもいます。

### (3) 寒川町総合計画2040 基本構想等の改訂について

野崎企画部長から菊地会長へ寒川町総合計画2040 基本構想等の改訂について質問

<事務局から資料3～6に基づき説明>

【会長】今御説明いただきました内容について、皆さんから御意見等ございますでしょうか。

【事務局】説明したばかりで申し訳ないのですが、資料3の最後のスケジュールのところで、下の全庁会議と議会本会議とありますが、その間にもう一度総合計画審議会を開かせていただいて、そこで答申いただくというようなステップがございますことを加えさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

【会長】資料3の20ページの総合計画審議会の11月のところに印が入るようなイメージと御理解いただければと思います。

案が示されました。基本構想というのは、2040年の寒川町が町として達成したいビジョンをつくって、そのビジョンを達成するための計画を作っていくわけですけれども、ビジョンというのは実は変えることというのではなくて、基本構想の中身を変えるというか、その前提となる社会経済環境というのが変化をしているので、その部分を変えた上で第2次実施計画を作っていくということです。ビジョン自体は議会の議決対象となるために、こういった手続を踏んでいくという形となります。

いかがでございますでしょうか。作られたときの前提と若干変わってきているというお話をございましたが。

【事務局】大きく言うと、社会経済環境、特にコロナの影響がこの第1次実施計画期間中は影響が大きかったというところが1つと、人口推計については減少していくだろうと見込んでおりましたが、ここのところの状況を見ると、ここまでに人口減少をとどめておきたいと言っていた目標人口を、さらに1,000人ほど上回っているという状況がありますので、そういったところの時点修正ということで、今回お示しさせていただいております。

【会長】4年前に作ったときにはもう少し悲観的なシナリオであったわけですが、それは恐らくいろんな理由があって、コロナによって人の都心からの移動等

があった。あるいは、これを作つて寒川町が一生懸命やつてきた施策の効果として、作る前の推計よりも若干上振れしているのは、ある意味、町がやつてきた政策の効果としても捉えることができますし、当然ながら、コロナ等様々な環境変化の要因も含めてかと思います。そのようにこの修正をしていくという形になりますが、いかがでしょうか。

【小林委員】今、1,000人ぐらい増えたということですが、現状のピラミッドというと、層が厚いのは何歳の層なのでしょうか。40歳なのか50歳なのか。

【事務局】資料4、序論の8ページを御覧ください。こちらで2010年、2020年、2040年、2060年のピラミッド構成という中で、一番近いと、2020年の実績値がございます。多いところでいうと、やはり第一次ベビーブームと第二次ベビーブームのところでお生まれになられた方が多いというところです。

【小林委員】2040年の頃には還暦ぐらいの人が増える感じですね。

【及川委員】私は事前に御質問させていただいたいて、回答いただいたときには、この人口推計がどうして上振れしたのか、その上振れしたところはどういう層なのかということで聞いたとき、「転入者が増えた社会増です。転入者の中で比較的多い年としては、30～40代と0歳から9歳、なのでファミリー層の獲得に成功しているものと考えております。」という回答をいただきました。

なので、ファミリー層が増えているということになるのですかね。私もせっかくなので、この総合計画が効いたのだということを、もっと前面に出したらいいのではないかとかと言ったのです。

【事務局】すみません、私が質問を捉え間違えてしまって。

【野崎企画部長】すみません、及川さん、お答えいただいて。

【及川委員】なので、若年層が増えたということですよね。町にとっても、もちろん様々な要因はあるのでしょうかけれど、ただ、そういう目標、お取組をしようとしていたことに対しては、先程会長が言われたように、非常にある意味効果が出たと捉えてもいいと思うので、それだったらもっと第1次実施計画の評価として出したらいいと思うのです。

【野崎企画部長】今、及川委員から言つていただいたとおり、我々も移住、定住の政策や、寒川町の知名度を上げる取組をしてきた中で、コロナでリモートができるから、都心からある程度離れたところもニーズが高まったというようなことが、背景にあるのだと思いますが、ある程度頑張って人口を減らさない政策を打つてきた中では、少しあは効果があつたのではないかと捉えております。

転入の方に答えていただいている中では、30～40代で、お子様が恐らく0から9ぐらいも増えているので、ファミリーで入つてくれている方々が増えたのが、実際の1,000人増えたところに大きく貢献しているのだろうと捉えているところでございます。

【小川委員】昨夜たまたま保護司会の反省会で、茅ヶ崎市長が同じことをおっしゃつていて、0歳から4歳、そして30代、40代の人口が、ここのこと茅ヶ崎市で

も増えていると。そうすると数年後に、学童や学校の需要が高まるので、そこを考えなければいけないということを茅ヶ崎市長がおっしゃっていたのです。

ということは寒川町だけでなく、近隣の市町も同じような傾向があつて、その原因としては、コロナ禍で自然が多いところに引っ越そうと思う方の引っ越し先候補が、寒川のみでなく、この辺みなそういう対象になったのかと思いますので、この総合計画もやはり、茅ヶ崎の動向や、海老名、藤沢の在り方なども見ながら、同じように乗つかつていくのもいいのではと思いました。

【篠田委員】今お話があったように、湘南地域は自然減があるのは当然なのですが、8市町のほとんどで転入超過になっています。大磯町なども社会増となっています。その中でも特に相模川から東側の藤沢市が圧倒的に増えています。自然減を上回って、実はそこは2035年ぐらいまでプラスを見込むほど。茅ヶ崎、寒川は増え方が非常に高くなっています。自然増を上回っている形になっています。

やはりコロナの関係で、東海道線1本で行けるようなところ、湘南の地域はとても人気が高くて、各市町がファミリー層を受け入れる施策を打ってきて、どんどんアピールして、地域的にもいいことです。その一方で、保育等が当面の課題として、ほかの地域ではないような形で出てきているのが、県の中でも見えている地域でございます。

【会長】ありがとうございます。それも御指摘ごもっともで、これを踏まえた上で第2次実施計画をつくっていくわけですね。

ただ本来であれば、需要減に合わせて畳んでいかないといけないと思っていた施策が、ある意味、畳み具合を少し緩やかにしていかないといけないというところも恐らく出てくる。あるいはむしろ力を入れていかないといけないところが出てくることを、この上振れとその上振れた中身の人たちというのが、10年後、20年後に寒川で何を求めるかということを考えしていくと、おのずと第2次実施計画で、もともと想定していた内容とえていかないといけないものがどういうものかが、少し捉えられるのではないかと思っています。

資料3の15ページに歳入の実績値が載っていて、これも結果的に上振れしている。令和5年度の一般会計歳入総額が、前年度、5年前よりもかなり上がっている。特に寒川町は不交付団体という中で歳入総額が上がっているのは、決して悪いことではなくて、このトレンドを続けていくことが、様々な施策を行っていく資源を確保していく形に繋がっていますので、そういうことも踏まえていく形になるかと思っています。

今いただいた御意見を踏まえて、修正等加えていただいて、この修正案というのが先ほどのこの資料3の最後にありましたとおり、最終的には、11月に答申案としてここに御報告して、これを答申としてお返しした後に、議会で議決をいただくというプロセスを踏む形となります。ですので、11月で答申案を確認、審議してまいりたいと思います。よろしくお願ひいたします。

	<p>(4) 寒川町総合計画 2040 第2次実施計画の策定スケジュールについて      &lt;事務局から資料7に基づき説明&gt;</p> <p>(5) 寒川町総合計画 2040 第2次実施計画体系図（案）について      &lt;事務局から資料8に基づき説明&gt;</p> <p>【会長】ただいま資料7のスケジュール、そして8の現行の実施体系図での協議の経過報告という形になると思いますが、次回の審議会でまた改めてお示しいただく形になりますが、現時点でのスケジュールとして、資料8の経過などについて、何か御意見、御質問等ございますでしょうか。</p> <p>【及川委員】第1次実施計画の評価のところで、アンケートで満足度をベースとした形で、この計画全体を進めていきましょうという方向性があると思っています。それで考えたときに、残念ながら今のところ、アンケートが何か中途半端な形でしか得られていないのではないかというのが、先ほどの議論からも出ていると思うのですけれども、その下で第2次実施計画をどうやって作るのかと、できることであればもう少しきちんとした形で、言わば満足度評価に資するだけのアンケートの形で取った上で、それを各部局に示して、それで各部局のほうで第2次実施計画をどういうふうに計画するのかを考えてもらうような、何かそういう手立てというのは取れないものでしょうか。</p> <p>このままいくと、単に第1次実施計画の延長線上での第2次実施計画、あるいは各部局が具体的な振り返りのないままに、ただ今までやってきたことの延長で決めていく計画になってしまいうような気がしていて、せっかく元々立てた目標があるので、もう少し満足度を上げていく形での第2次実施計画の策定ができるものかと思うのですけれども、それはいかがでしょうか。</p> <p>【事務局】アンケートについては、今各所管課で個別計画を第2次実施計画に合わせたタイミングで見直しをかけているという中で、各所管課のほうでも無作為抽出によるアンケート調査というのを別に行っております。</p> <p>細かい結果は私のほうでまだ把握していないのですが、当然それらのアンケートの結果を踏まえて、各個別計画の見直しや、それに基づいて、どういう事業を登載すると総合計画で置いている政策の実現に寄与するのか、そういったところを踏まえていければいいと思っています。また、アンケート調査の結果だけにとらわれるのではなくて、当然近隣自治体の状況や、財政規模が同様の類似団体の政策等も比較検討した中で、町の強みや、逆に弱みがどこにあるのかを分析しながら、第2次実施計画に反映して、よりよいまちづくりに繋げていけたらと思っております。</p> <p>【高橋委員】各部署でアンケートを別にやっているということですが、企画部で統一して作るのではなくて、各部ごとに作っていいものなのかという気がしているのです。</p> <p>また、毎年やっているアンケートの結果を担当に投げて、どうしてこうなったのかというような分析はしていないのでしょうか。アンケートの結果をフィードバックしていないのでしょうか。</p>
--	---

	<p>【事務局】アンケートを二重にやっているのではないかという御懸念がありました が、各所管課で持っている個別計画を改定するのにあたって、それぞれの課でアン ケート調査を4年に一度等で実施し、経年変化を捉えております。</p> <p>満足度アンケートは、町民が持つイメージを捉えるアンケートになります。町民 からして、様々な施策がある中で、それが良いと思っているか、そうでないと思っ ているかというような調査になっているので、その区別はできているのかと思 います。また、アンケートのフィードバックについては、毎年年度途中で、第1四半 期が終わった段階で、当該年度の進捗状況を確認する事中評価というものをやっ いて、年度中に達成する見込みが厳しいところについては、何か手を入れる必要が あるのではないか等、当然事後評価も、前年度の実績を見て、こういうふうに改定 したほうがいいのではないかというようなヒアリング等も行っておりますので、そ の中でアンケートの結果というものを含めて、フィードバックはさせていただい ております。</p> <p>【会長】高橋委員がおっしゃったのは令和6年度の事業が、第1次実施計画の最後 の年度が回っている中で、本来であればそれが終わって、評価が終わった後、第1 次実施計画全体の総括をした上で、次の第2次実施計画を作るというのが一番いい のですけど、実際にはそうはならないものです。今回のアンケート調査も、令和5 年度までの施策や事業が反映されたもの、加えて事務事業評価も、令和5年度の事 務事業評価の結果が令和6年度に出ており、その時差があります。</p> <p>とはいっても、この3年の間やってきた事務事業評価が、アンケート調査の結果とい うものが不完全だったとしても、資料8でいうと、担当課が出してきた案と企画政 策課の案、ここにいろいろなやり取りや協議があるわけです。その協議等の材 料として使ってほしいということだと思います。それこそがこの事務事業評価、あ るいはアンケート調査や満足度という評価情報を基に施策を組み立てていくプロ セスとなります。それを基にキャッチボールが行われて第2次実施計画が使われて いてほしいなど、そういう御意見だと思います。</p> <p>【野崎企画部長】そうですね。アンケートも単年度で実施しているので、第1次実 施計画の総括をして、それを踏まえて第2次実施計画に繋げるという御意見をいた だいている中では、実績を十分に分析して繋げていくことについては、まとめ切 れていないので、それはできれば次回、皆さんにも見える形にしながら繋げていきた ので、課題として捉えさせていただきたいと思います。</p> <p>また、アンケートについて、総合計画は4年ごとの実施計画なので、この4年での 総合計画としてのアンケートを実施しているのですが、他のアンケートと言った のは、例えば福祉計画は法定で見直す年数が決められているのですけど、作り直す ときに、その福祉に関してのアンケートを実施しています。先ほど猿渡委員が言及 された、南部のほうの交通が弱いという点で、買物に行くとき使っていただけるよ うにコミュニティバスを走らせていますが、たくさん乗ってもらわないとたくさん 走らせられないのですが、今の社会的なニーズと併せて、見直しするときに個別に</p>
--	--

	<p>アンケートをやっているという意味ですので、重複して実施しているわけではないのです。総合計画は総合計画全体としてよくするためのアンケートで満足度を調査していて、他は他の個別計画をつくるためのアンケートを実施しています。</p> <p>【高橋委員】もしそうならば、やはりリンクしていないとおかしくなると思います。先程のアンケートの結果のときにも質問が出ていましたが、0%ということはあり得ないわけです。そのときにその担当の部署ではこのように進んでいるからここまで行っているのだという数字が出てきているならいいのだけれど、それをリンクさせながらやっていく、それでアンケートの価値が出てくるのだろうと思います。</p> <p>【会長】ありがとうございました。この第2次実施計画については、次回、次々回と議論が続けられますので、その中でこの実施計画だけでなく、実施計画を今日議論したように、どのように進捗管理していくのかというような話も含めて議論ができればと思います。今日のところはそういった、今後のスケジュールと方向性の頭出しということで御理解いただければと思います。</p> <p>【小林委員】資料5の33ページの寒川町の将来都市構造ですが、これは先程「つながる力で新化するまち」というのがあったし、また、資料1の46ページにて施策タイプⅢにカテゴライズされるものだと思っているのですが、資料8の5番、時代に最適化したにぎわいのあるまちづくりについてです。</p> <p>にぎわい交流創出ゾーンの話もありましたけど、それでいくと今回の仕分の赤いところで、ほとんど何かこここのゾーニングされたところが見え消しにされてしまっているんですけど、これはこの40年の間に寒川駅南口の整備事業や田端も工業団地のゾーニングしかやらなくて、にぎわい交流創出ゾーンや、倉見の駅前、ツインシティのような構想には資源を割かないという意味なのでしょうか。</p> <p>【事務局】第2次実施計画が、令和7年度から10年度までの4年間の計画ですので、その具体的な4年間で、どれだけの予算をかけてどこまで進めるのかがイメージできるものであれば、第2次実施計画に登載します。ただ、おっしゃっていただいたように、倉見の拠点、ツインシティ構想、にぎわい交流創出ゾーンなどは、来年からの4年間で何ができるかは現時点で具体的に案は出せない、出しにくいというのが正直なところです。</p> <p>ただ、2040年までの間には、当然取り組まなければならぬので、おっしゃっていただいたインフラ整備については、別立てで2040年に向けての方向性というような形の表記をさせていただければと、事務局でも考えているところですので、第2次実施計画の中に記載はしますが、具体策としては少し出しにくいところです。</p> <p>【野崎企画部長】見せ方として、まだ企画政策課案なので、上部にはまだ出していない、調整し切れていないところも当然あります。そして今言われたとおり、南口については、駅前広場を造らなければいけないとと思っているのですが、商業施設が入るということをこの4年間の中で指標を立てても、結果が出せないだろうというところは正直あります。</p> <p>田端については、組合に対して町も支援はしていますけど、あと2~3年で換地</p>
--	---

も終わる予定なので、具体的な指標を出して町が管理するという状況ではなくなっているので外しています。

倉見については、力を入れてやっていかなければならないですが、4年間で指標を立てたとしても、何らかの形で政策としては上位で位置づけなくてはならないので、今決まっていないところです。

宮山駅についても、寒川神社へのアプローチや、自転車置場、駅前広場なども将来的に必要ですが、この4年間でという中では、都市インフラのことは、表現の仕方は少し変わるかもしれないということを、今日の時点では御理解いただければと思います。

【小林委員】資料5の33ページの将来都市構造、倉見に新幹線新駅がすぐできればいいのですが、もう平塚側では道もできていて、あとは県が橋を造るというところまで来ているのに、こちらは何も打てないのでしょうか。

【野崎企画部長】御意見として承ります。

【会長】来年度からの4年間で事業費を積算できるような内容がこの実施計画に載るわけで、この仕込みの段階は、実施計画には載らないが、見せ方として工夫が必要だということですね。

【野崎企画部長】そうです。

【事務局】実施計画には載らないというよりは、中長期的な取組として載せていくというものです。

【会長】ありがとうございました。まだ2回、3回と議論できますので、議題の(5)は以上とさせていただきたいと思います。

## 5.その他

【会長】何か意見の言い忘れや、委員会の運営全般確認などございますか。

【相田委員】新幹線新駅新設について、住宅を退けなければ整備できない。そんな4年や5年でできるわけがない。何で寒川へ、倉見へ新幹線の駅を造るって言い出したのか。寒川駅の南口の整備だって、4年や5年でできないと思います。もう少し考えてください。

【事務局】これは2040年のビジョンなので、それがまさに具体化になったときに実施計画に載ってくるということで、先程の小林委員の御指摘とも繋がります。

【野崎企画部長】会長にまとめていただいたところですが、地元の方々にとって非常に重要な問題で、軽々しく私が力を入れてやらなければならないと言ってしまったところは、本当に申し訳ないと思います。

町長も町民にとって利益にならないのだったら当然進めることはできないと言っています。ただ、神奈川県全体として利益になるために南のゲートとしてやっていくという考え方は我々も一致するところですので、やはりやるとなったときに、そこにいる方たちにとって良くない形にしてはいけないですし、また、どうしても莫大な費用がかかるので、神奈川県並びに周りの市町村の財源をもって、全体で支

	<p>援していただけるという形が見えるなら進めていくのだけれど、そこが整わなければ前は進めないというのが基本的なスタンスの中で、皆様に本当に不利益が行かないよう取り組んでおりますので、御理解いただければと思います。</p> <p>【相田委員】相当の費用がかかるのだから、4年や5年でやっていたら、町が破産する。</p> <p>【会長】お金もそうですが、人の生活に関わることであるというご指摘かと思います。相田委員、御指摘ありがとうございます。</p> <p>事務局より次回会議の開催予定の事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回会議 11月頃開催予定</li> <li>・内容は総合計画体系図（案）・事務事業（案）の確認</li> <li>・詳細については別途連絡する</li> </ul> <p>○閉会</p>
資料	<p>令和6年度第1回寒川町総合計画審議会次第 寒川町総合計画審議会委員名簿</p> <p>資料1 寒川町総合計画アンケート調査結果報告書</p> <p>資料2 寒川町総合計画 2040 第1次実施計画令和6年度事務事業評価結果 (令和5年度実施事業分)</p> <p>資料3 寒川町総合計画 2040 基本構想等の改訂について</p> <p>資料4 (参考・現行) 寒川町総合計画 2040 序論</p> <p>資料5 (参考・現行) 寒川町総合計画 2040 基本構想</p> <p>資料6 パブリックコメント概要版 (寒川町人口ビジョン・総合計画 2040 基本構想の一部改訂)</p> <p>資料7 寒川町総合計画 2040 第2次実施計画の策定スケジュール</p> <p>資料8 寒川町総合計画 2040 第2次実施計画体系図（案）</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	菊地 端夫 (令和6年9月18日確定)